

最後にほんのいくつかの言葉で締めくりたいと思いますが、長い一日であったにもかかわらず、大変興味深いものでありました。この総会の前に、両国の協力関係のために既に皆様が始めた様々な活動をさらに進めていくためにも、また次回の総会に向けてこれから発展させていくためにも、大変有意義であったのではないかと思います。皆様、本日はご参加いただき、そして様々な示唆を提示して下さい、誠にありがとうございました。

今朝も話しましたように、イタリア側の立場としては、今年は日本の友人の方々の手を借りて、この総会をイタリアと日本という二国間にとどまらず、より幅広くヨーロッパを視野に入れたものにしてみました。ですからこれからは、ヨーロッパの各種イニシアチブにも参加し、関係改善に貢献していくことが重要だと思います。そしてヨーロッパのシステムと日本のシステムの合意点を見つけ出し、貿易、金融、文化および科学分野における交流を活性化させたいと思います。我々はこの道を進むべきで、私自身はヨーロッパ産業界の者で構成されるラウンドテーブルのメンバーでもありますが、そこでもヨーロッパと日本の関係発展のために貢献し、次の欧州・日本会談までには何らかの結果をもたらしたいと考えています。

また、ここ数ヶ月の間、中小企業や様々なテーマのもとに活動を続けてきた各分科会の皆さんにも厚くお礼を申し上げます。最近、日伊ビジネスグループの後援により、我々グループの 22 周年記念の本を出版いたしました。この 22 年間、ウンベルト・アニェッリ氏がまさに主役だったわけですが、彼は既に 22 年前に日本と長期的な戦略関係を結ぶことが重要だと先見の明を持っていました。しかし当時はまだ、この関係からどのようなメリットが生まれるかという認識は低かったと思います。いずれにせよ、彼は遠い先のことを考えていたのでした。

我々はこの活動を通して、研究、イノベーション、クリーンエネルギー、自然災害、航空宇宙、そしてまだ今日でもきちんとは定義されていないテクノロジーといった分野を重要テーマとして取り上げてきました。そして、日本とイタリア両国の中小企業もつテクノロジーが、手工業産業の代表的な国である日本とイタリアが常にリーダーシップをとり続けることができるよう、将来のために貢献してくれています。

私の同僚であり、友人である佃会長には、イタリアにミッション団を連れてきて下さり、そして各テーマに対して様々な興味を示して下さい、本当に感謝いたします。来年の総会では、我々も多くのミッション団と日本を訪れ、また政府関係者なども交えながら、重要な結果を生み出すために努力を続けていきたいと思っています。

ありがとうございました。